

タイトル	染めもの一折り紙紋りでハンカチを染めよう				
学校名	千葉県立	長生	高等学校	工芸	氏名 稗田昭子
教材費	300円～500円			実施時間数	4時間

1. ねらい

生徒にとって絵を描くこと（美術）は身近である。それに対して染物はほとんど生活から消え去っている。その他の工芸もかって生活技術の一端であったことさえも忘れられ、自ら作り出したりまた繕いながら使い込まれる文化は急速に失われている。

高度で専門的な技能はたやすく習得は出来ないが、生活するために必要な技術を体験しくつくる楽しさを味わうことが工芸学習の導入のように考える。

ただしシラバスにおいては導入期ではなく、中盤や最終の時間調整のお楽しみ教材として扱うことが多い。

2. 材料

綿ハンカチーフ 200～300円位
 染料・助剤等 100～200円位
 ステンレス製ボール・菜ばし
 輪ゴム・割りばし・折り紙等

<参考>素材では ・Tシャツ 500円位
 ・絹スカーフ 500～1000円位
 技法では ・板締め紋り一折りたたんだ布を同形の板で挟みこみ固定し染める。
 ・縫い締め紋り一くくり糸と針で縫って紋り染める。

3. 展開（時間）

1・2時間

- ・資料を見ながら折り紙を折りたたんでハサミで切り込み、模様—パターンがどのように繰り返されるか予測する。<構想>
- ・実際にハンカチを折りたたんで輪ゴムで絞る。<作業>

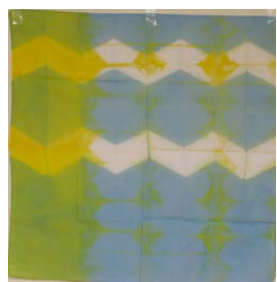
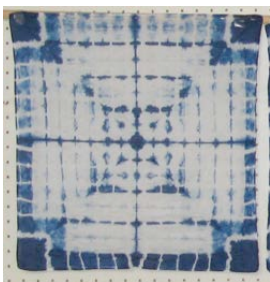
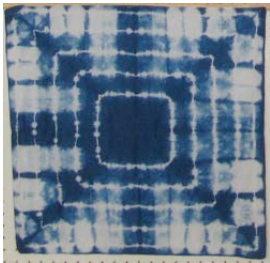
3・4時間

- ・準備ができたハンカチをあらかじめ水に浸しておく。（5～10分ほど）
- ・染液を準備しハンカチをつける。（30cm位のボールで数枚は可）
- ・むらが出ないように洗液の中で菜ばし等で練る。
- ・15分ほどで洗液から取り出し別のボールで流水でゆすぐ。5分くらいは水を流しっぱなし。
- ・色が出なくなったら輪ゴムを外し、さらに手で洗う。
- ・色が薄くなるが、2回くらいは可。時間が経過すると酸化し不具合が出る。

4. 指導上の留意点

- ・堅牢で色落ちがほとんどないネオスレン染料を使うことが多い。ただしアルカリなので素手ではなくゴム手袋を使用するか、長めの箸を使用する。
- ・還元した染料を水で酸化しはじめて発色するので、色によっては染めあがるまで判らないのが難点である。
- ・基本的には藍染風の青系統（3色）を主に単色で使用する。藍染風に仕上がる。
- ・うまくいかなかった（ムラや薄い）場合、さらに赤・黄系統をかけて（2度染め）色を重ねあわせる。板締め紋りの方が効果的である。
- ・染料の準備等は指導側で行うので、作品の評価は差をつけない。生徒の負担感が減り、工芸を楽しむことができるように感じる。
- ・工芸Ⅰでは<折り紙紋り>や板締め、ⅡやⅢでは興味があれば縫い締め紋り等を学習させる。

- ・T シャツも可能であるが、ステンレスタンクが必要で、一度に多数は難しく、また廃液処理も大量になる。
- ・草木染（自然染料）は絹や羊毛の動物繊維の素材でないと発色が難しい。
- ・インド藍は比較的簡便であるが、日光堅牢度が低く展示していると色あせるので注意が必要である。



折り紙絞り

縫い締め絞り

左 部分

板締め 青×黄

5. 資料・参考文献

- ・「新版藍染おりがみ絞り」 高橋誠一郎著 染織と生活社
- ・「染色の基礎知識－実技に役立つ染料・助剤・用具・染め方－」 高橋誠一郎著 染織と生活社